

mps 東京大学大学院工学系研究科 都市持続再生学コース
Master's Program in Sustainable Urban Regeneration

東大まちづくり大学院

Urban Engineering Civil Engineering Architecture

2016年度コース案内

東大まちづくり大学院で学ぼう.....	1
教員紹介.....	2
教育プログラムの特色.....	4
在校生の声.....	6
修了要件と学位.....	8
入学試験.....	9



東大まちづくり大学院で学ぼう

(工学系研究科 都市工学専攻 都市持続再生学コース 社会人向け修士課程)

社会人のためのまちづくり大学院

東大まちづくり大学院（都市持続再生学コース）は、社会人向けの大学院修士課程で、東京大学大学院工学系研究科の都市工学専攻、社会基盤学専攻、建築学専攻の3専攻がサポートします。まちづくりに関連する広い分野の実務経験者を対象に、総合的な教育を行い、まちづくりの現場において中心となって活躍する高度な知識をもった専門家を養成することを目的としており、国内に類例のないプログラムです。

学生像は、自治体都市計画関係職員・政府機関職員、不動産・建設・その他関連企業都市開発担当者、まちづくりNPOメンバー、まちづくりに関心をもつ社会人など多岐にわたると想定されており、実際に在校生は年齢20代から60代まで、出身大学は北海道から九州まで、職場も自治体あり、民間企業ありと多彩です。

人口減少、国際化、情報化等が進行する中で大きく変わる都市社会やまちづくりに、最新の知識と深い思考で立ち向かうために、ぜひ「東大まちづくり大学院」で学んでください。

特 徴

■ 在職したままで修了可能

夜間・土曜日の受講により在勤のまま所定の単位を修得することが可能です。
入学時に長期履修学生制度を申請すれば、同額学費で修学年限を3年または4年に延長することも可能です。

■ 横断的な教育プログラム・充実した講師陣と産学官の連携

東京大学大学院工学系研究科の3専攻の協力体制のもと横断的な教育プログラムを展開します（学生の所属は都市工学専攻）。教授陣は、学術面においてトップクラスの第一人者や新進気鋭の若手教員の他、国土交通省等の官庁・自治体・民間企業等で豊富な実務経験を有する優れた専門家で構成されています。また、本コースの中に、不動産関係3社、建設関係5社、エネルギー関係1社、住宅関係1社、電機関係1社の合計11社のご協力で、寄付講座（都市持続再生学寄付講座 Laboratory for Urban Sustainable and Renaissance Studies）が開設され教育・研究に当たっています。

■ 教育プログラムの特色

実践に必要な理論、知識、技法・技術を学ぶための文理融合型講義内容です。
持続可能な都市地域づくり、高齢化社会対応のまちづくり、安全安心のまちづくり、活力ある魅力的なまちづくり、協働のまちづくりなどの現代的な都市再生課題を取り上げます。広範囲な基礎知識を講義で身につけ、理論や技法・技術の応用・活用方法については、演習で理解を深めるという段階的な教育プログラムを採用しています。仕上げは、個別指導による修士論文のための研究で行います。

ご挨拶と東大まちづくり大学院教員紹介 (2016年4月1日現在)



dean of the school of engineering



工学系研究科長
光石 衛 教授

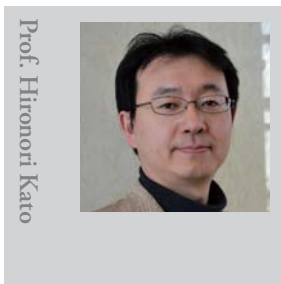
東京大学大学院工学系研究科では、時代や社会の要請に応じて多様なプログラムが提供されています。まちづくりの実務に携わる社会人を対象とした都市持続再生学コースもそのひとつであり、社会基盤学専攻、建築学専攻、都市工学専攻の3専攻が協力して講義・演習・研究指導を行っています。本コースは第一線で活躍する多様な講師陣、参加型の講義や演習など、専門性と実践性を兼ね揃えた特徴的なプログラムとなっています。国際化、少子高齢化、気候変動など、ますます都市課題が深刻化し複雑化するなか、本コースを最大限に活用して幅広い視野と最新の知識を身につけ、これからのまちづくりをリードしていかれますことを心より期待しています。

chairs of the departments concerned



都市工学専攻長
浅見泰司 教授
専門分野：空間情報解析、都市計画、都市住宅学

まちづくりを進めるためには、まちの構成、構成要素の相互関係、その一部を改変した際の影響を理解しなければなりません。その対象は、まちという空間、まちにかかわる人々、関連する社会状況や制度など多岐にわたります。まちづくりの専門家になるためには、その全体像を理解しつつ、部分に対する深い洞察力がもとめられます。そのような能力を身につけ、これからのまちづくりの中核として貢献していただくことを期待しています。



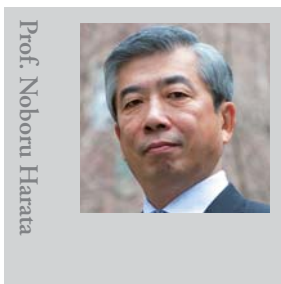
社会基盤学専攻長
加藤浩徳 教授
専門分野：国際プロジェクト学、国際交通学、交通計画、交通政策

まちは、日常生活の場であるとともに、イノベーションの源泉でもあります。人口減少が確実な中、「小粒でもきらりと光る魅力的な社会」を作っていくためには、異質の考えを持つ人々が相互交流し切磋琢磨することによって、新たな問題を発見したり、画期的な発想を生み出したりできる環境の構築が不可欠です。本コースでの学習を通じて、創造的なまちをつくり、国際社会で活躍する人材育成に貢献できるようになることを期待しています。



建築学専攻長
赤司泰義 教授
専門分野：建築熱環境・設備、建築・都市エネルギー

「まち」には、安全で健康・快適な空間と豊かな文化、そしてそれらを支える多様なシステムが必要です。建築は「まち」の空間的要素の一つですが、昨今のヒートアイランド抑制やスマートエネルギー構築の取り組みなどにみられるように、建築のあり方を「まち」や「都市」との関わりの中で捉えることが強く求められるようになりました。本コースでの履修活動を通して、全体を俯瞰する力、知識や技術を総合化する力、将来を見通す力を養われ、未来世代のためのまちづくり先導に活かされることを期待します。



まちづくり大学院 コース長
原田 昇 教授
専門分野：交通まちづくり、持続可能な都市構造、交通行動分析

まち大は、入学者数160名、修了者数約100名と実績を重ね、学年を超えた学生交流も活発です。社会人学生の持つ専門性と高い問題意識が、豊富な講師陣による質疑の盛んな講義、学生の専門性が化学反応を起こす演習、アカデミックな作法の中で独自の研究成果をまとめる修論構築と格闘することを通して、現代社会のまちづくりに役立つ発想、知識と技法が習得され、現場のプロジェクトチームをリードする人材が輩出されることを期待します。

■都市工学専攻

浅見 泰司	教授	都市計画、都市住宅学、空間情報解析
大方潤一郎	教授	都市計画、土地利用計画、都市空間変容のコントロール手法、自治体固有の都市地域空間のマネジメントシステム、超高齢化社会対応のコミュニティの社会的空間的設計
城所 哲夫	准教授	アジア都市計画、空間ガバナンス、エコカルチャルネットワーク
窪田 亜矢	特任教授	地域デザイン、復興デザイン
小泉 秀樹	教授	コラボラティブ・プランニング、まちづくり論、コミュニティ・デザイン
瀬田 史彦	准教授	人口減少局面の国土・地域・都市政策
高見 淳史	准教授	都市交通計画、交通と土地利用の統合的計画
寺田 徹	特任講師	都市緑地計画、ランドスケープ計画、都市近郊林の保全と利用
中島 直人	准教授	都市デザイン、都市論、都市計画史
花木 啓祐	教授	都市の環境の解析、物質フロー解析、温暖化対策
原田 昇	教授	交通まちづくり、持続可能な都市構造、交通行動分析
樋野 公宏	准教授	居住セキュリティ、都市居住・住環境
廣井 悠	准教授	都市防災、リスク工学
古米 弘明	教授	都市雨水管理、下水道システム、水環境保全
村山 顕人	准教授	環境負荷低減・減災に向けた都市計画、計画策定技法
森口 祐一	教授	物質フロー分析、ライフサイクルアセスメント、廃棄物処理・リサイクルシステム
横張 真	教授	緑地環境計画、ランドスケープ計画、サステナビリティ
ほか、都市工学専攻教員		

■先端科学技術研究センター

西村 幸夫	教授	都市デザイン、都市保全
-------	----	-------------

■生産技術研究所

加藤 孝明	准教授	地域安全システム学、減災・復興まちづくり、自然災害リスク評価、計画支援システム
-------	-----	---

■社会基盤学専攻

羽藤 英二	教授	都市生活学、ネットワーク行動学、都市マーケティング論
ほか、社会基盤学専攻教員		

■建築学専攻

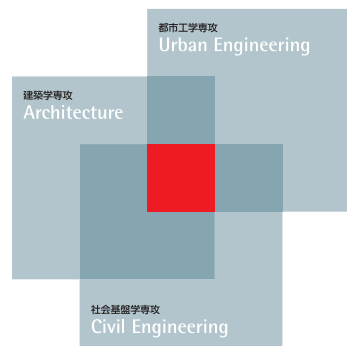
隈 研吾	教授	建築家、都市・建築デザイン
ほか、建築学専攻教員		

■非常勤講師(予定を含む)

明石 達生	東京都市大学都市生活学部	教授
遠藤 薫	東京電機大学未来科学部建築学科	特任教授
亀卦川幸浩	明星大学理工学部	教授
片山 健介	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科	准教授
鈴木 俊治	有限会社ハーツ環境デザイン	代表取締役
篠沢 健太	工学院大学建築学部	教授
高松 誠治	スペースシンタックス・ジャパン株式会社	代表取締役
田中 正人	都市調査計画事務所	代表
中山 久憲	神戸学院大学現代社会学部社会防災学科	教授
信時 正人	横浜市 温暖化対策統括本部	環境未来都市推進担当理事
増田 寛也	野村総合研究所	顧問
宮城 俊作	奈良女子大学生生活環境学部	教授
和良地克茂	日本生命保険相互会社	不動産部 不動産投資開発室長

*教員の最新情報は、東大まちづくり大学院のサイト(<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/faculty.html>)をご覧ください。

教育プログラムの特色



充実したコースワーク

従来の研究重視型大学院教育とは異なり、実践に必要な広範な理論、技法・技術を獲得するため、文理融合型の充実したコースワークを用意しています。

現代的都市再生課題に焦点をあてた段階的な教育プログラム

持続可能な都市地域づくり、高齢化社会対応のまちづくり、安全安心のまちづくり、活力ある魅力的なまちづくり、協働のまちづくり、といった現代的な都市再生課題を講義の主題に捉え、これら課題に取り組む際に実際に役立つ理論、知識、技法・技術を身につけ、必要とされる企画構想力・調整能力を養います。

段階的な教育プログラム

異なる講義形式を用いた段階的な教育プログラムにより、効率的に受講生の能力を高めます。広範にわたる基礎知識を座学型講義で身につけ、都市再生実務における理論や技法・技術の応用・活用方法についてはケースメソッドで理解を深めます。そして、実務実践型講義では身につけた知識を活かすために必要となる構想・調整能力を養います。

■講義

都市空間政策 (選択:1単位/半学期)

都市の空間計画、交通政策、環境政策、安全・安心、都市福祉政策、都市のガバナンスといった広範な領域について、充実した講師陣による最先端の講義によって、現代の都市づくり・まちづくりに必要な知識を獲得します。

都市経営基礎 (選択:各2単位/1学期)

マネジメント、行財政制度、住宅・不動産開発、都市社会論といった広範な領域について、社会科学系の基礎知識を体系的に獲得します。

都市経営戦略 (選択:各2単位/1学期)

都市の産業と経営戦略、都市の文化・観光政策といった講義群により、都市経営や都市政策の立案に必要とされる、より実践的な知識を獲得します。

その他 (上記の講義の一部または特別講義により行うもの)

省庁担当官等による都市関係制度・事業、自治体による先駆的試み、最新の都市開発事例などを紹介・概説する講義・セミナー、学術研究や論文執筆の手法を概説する講義、また自治体首長、先進事例の実践者、海外の著名研究者による講義・講演などを予定しています。

■演習

まちづくり演習 (1年次) (必修:3単位/1学期 全6単位)

日常生活圏のまちづくり、持続可能な都市圏計画、中心市街地＝ダウンタウンの再生、都市空間・環境・コミュニティのデザインの4つの主要課題を対象に、都市再生の第一線で活躍する専門家(非常勤講師を含む)による実践的指導のもと、政策・手法・戦略・事業の企画構想・提案を行います。演習では、ケースメソッド方式の講義を踏まえつつ構想・提案を行います。

まちづくり演習 (2年次) (選択:最大2単位/1学期)

まちづくりのマネジメント、都市開発事業の企画設計といったテーマをもとに、自由選択で行います。

■研究

都市持続再生学特別演習 (修士研究 必修:2単位/1学期 全4単位)

学生の実務・関心に直結した研究を2年次より行います。

講義：平日夜 火・水・木・金 6限：18：40～20：05、 7限：20：10～21：35
演習：土曜日 3-5 限：13：00～18：10 研究：随時

		A1・A2ターム(冬学期)		S1・S2ターム(夏学期)	
1年次(2年次以降も履修可)	講義 (選択) 都市空間政策 各1単位 (半学期) 火・水・木・金 (6限、7限)	都市地域計画論・基礎編 ●都市空間政策の基礎 (都市計画制度概説、都市マスタープラン・土地利用計画の策定手法、地区レベルの計画策定手法)		都市地域計画論・街並編 ●都市デザイン、復興とまちづくり	都市地域計画論・コミュニティ編 ●コミュニティデザイン、マネジメントの理論と実践
		都市情報の分析Ⅰ ●都市解析	都市情報の分析Ⅱ ●交通・土地利用・人口分析とGIS		都市と環境Ⅱ ●環境工学の応用
		都市と環境Ⅰ ●環境工学の基礎			持続可能な都市圏計画論 ●各国の都市圏計画
		都市防災概論 ●災害対応を中心とした都市の防災・減災政策		安全安心まちづくり論 ●日常的な危険への対応	緑地環境計画論 ●都市や郊外の緑地、農地、里山の持続的な整備と保全
				超高齢化社会のまちづくりⅠⅡ ●活力ある超高齢化社会の構築と実現手法	都市地域政策の構想と展開 ●政策担当者による講義
	都市経営基礎 各2単位 (1学期)	都市開発のマネジメント論 ●マネジメントのあり方			
		都市計画・まちづくりの制度 ●都市計画制度とその運用			
				都市再生・不動産開発事業とファイナンス ●都市・不動産開発の実務	
	都市経営戦略 各2単位 (1学期)	都市の文化・観光政策 ●都市における文化と観光要素		都市産業と経営戦略 ●産業活動の動向とイノベーション	
	その他 1単位 (1学期)			学術研究基礎 ●研究および論文執筆の手法	
2年次	演習 各3単位 (1学期) (必修) 全6単位 土曜3-5限	日常生活圏のまちづくり ●少子高齢化社会に対応したまちづくり手法	持続可能な都市圏計画 ●都市圏計画・広域計画の策定		
				パブリックライフ／パブリックスペース ●快適性、美しさ、賑わい、路上空間の活性等の戦略と手法	ランドスケープ・デザインコース コミュニティ・デザインコース *いずれかのコースを選択
	演習 最大2単位(1学期) (選択) 土曜3-5限	まちづくりのマネジメント ●地域再生	都市開発事業の企画設計 ●都市と住宅・不動産開発		
	研究 各2単位 (1学期) (必修) 全4単位 随時	修士論文研究			修士論文研究

■特別講義(随時開催) ■他コース、他専攻講義(平日昼間開催・自由選択) ■演習(選択)については、学生の希望に応じて内容を変更する事がある。

*上図は、各講義の大まかな開講時期と概要を示しています。より正確な開講時期やシラバスは、各学期開始前にご確認ください。
また、現在のシラバスは東大まちづくり大学院のサイト (<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps/curriculum.html>) でも公開しています。



社会人として東大まちづくり大学院で学ぶことを決意し、入学した皆さんが、多忙な中、仕事や生活と大学院を両立させつつ、どのように日々を送っているのか。2015年10月に入学した第9期生による座談会を通じて、入学後の雰囲気をお伝えします。

●座談会出席者紹介

石渡氏(40代、男性、不動産) 大木氏(20代、女性、地方自治体)
片桐氏(30代、男性、鉄道) 小林氏(50代、男性、地方自治体)
島氏(40代、男性、地方自治体) 白鳥氏(50代、女性、鉄道会社)
岳村氏(30代、男性、地方自治体) 千葉氏(50代、男性、法律)
野澤氏(40代、男性、地方自治体) 橋田氏(40代、男性、一般財団法人)

■まち大でのアカデミック・ライフについて



■座談会の様子

小林：夕方6時40分から、9時35分まで講義。楽しい時間です。11時には帰宅します。確かに大変ですが、毎日講演会に行っているような気分で、充実しています。

片桐：これまでシンポジウムなどで、お金を払って話を聞いてきた講師の先生の話が、学生として毎日聞けるという感じです。知らない事例も沢山あり、とても勉強になります。

島：平日の講義で体系的に知識を学んで、土曜日の演習で実践的なスキルを鍛えてもらえます。それを気の知れた同期と一緒に取り組むことができ、恵まれています。

岳村：多種多様な講義があって楽しいですね。中でもGISの分析は為になりました。社会人になってから学ぶ機会がないですからね。単純に面白かったです。

小林：私はもともと興味があったことから、観光まちづくりの講義の、歴史的町並みの再生の話が印象に残っています。

大木：私は行政に勤務しているので、都市計画の講義で、都市の歴史と制度の歴史を体系的に学んだのが良かったです。あと、少人数なので、質問もしやすいですね。

白鳥：鉄道会社に勤務していることから、交通まちづくりの講義が新鮮でした。現在は、交通といいながらも、都市計画やまちづくりとの連携が必要だという点が、日々の業務で思っていることと重なって、心に残っています。

島：もともと文系なので、都市解析の講義が新鮮でした。数式の扱いなどは、この年になると学ぶ機会がありません。普段の業務では分業して、専門家の人に任せてしまいますから。

石渡：私は都市計画制度の講義が非常に役に立ちました。制度については、業務の中では勉強していたのですが、体系的に学ぶ機会がなかったのです。

片桐：私も、制度の講義を通じて、その制度ができた背景や、本当の目的を知れたことがものすごく勉強になりました。私自身は民間ですが、実務で行政の方と話すときでも、今は、「こういう思いで作られた制度ですね」と言えるようになりました。

野澤：実務は現場の技術が大事ですが、まち大の講義では、その背後にある、根本的な考えを学ぶことができます。

島：現場という意味では、講師の先生方も、いろいろな地域から来られていて、バランスが取れていると思います。私は、自分の業務の関係から、関西の地方都市をどうするかという点から講義を聞いています。

橋田：確かに、ゲストスピーカーが多いことに、いい意味で裏切られました。話題がとても多様で、いろいろな視点で考えることができます。

石渡：私は横須賀に住んでいますが、首都圏でも衰退している地域です。講義を通じて、都内の基盤整備に対する投資がすごいこともよく分かりましたし、比較する視点を持つことができました。

千葉：私は普段の業務が都市計画から少し離れているので、なぜ、講師の先生達が、「まちづくり」という学問に興味を持っているか、に興味をもっています。ひとつのテーマで何十年も「まちづくり」を研究され、日本の都市工学を牽引してきている先生達の講義を、今、自分が受けていることに、とても新鮮さを感じます。

■受験生へのメッセージ:まち大入学のすゝめ



■日々の講義(工学部14号館141教室)



■演習におけるフィールド調査(柏市)

岳村：社会人になってからの知り合いの輪がまた広がります。自分の会社以外の人脈のつながりが持てます。刺激になりますよ。

橋田：仕事をしていく上での知識を身に着けたい。もっと教養を深めたい。いろいろな目的の人が、それぞれの目的を叶えられる場所だと思います。博士後期課程に進学する人だっています。可能性はどんどん広がります。

小林：どうしても立地的な制約があるのかもしれませんが、地方の人があまり入ってきけてないのがさみしいですね。地方の方にもっと受験してほしいです。

島：気の知れた同期。お酒にさそってくれる先輩。恵まれた環境です。同期や先輩との出会いは今後ずっと活かれます。一度門をたたいてほしいです。

石渡：私は建築学科の出身ですが、建築の中の都市計画と、まち大の都市計画は違います。いままで勉強してこなかった、広範なテーマでまちづくりが学べています。払った授業料以上のリターンがあると思いますよ。

片桐：仕事との両立が可能かどうか不安でしたが、いざ入ってみると、どうにかなりました。どこにどういふうに時間を割くべきか。メリハリをつける。自分をマネジメントする力が付いたと思います。忙しい人でも、ぜひ挑戦してほしいです。

大木：現場で疑問に思うことがたくさんありましたが、まち大は、それを客観的に見る視点を与えてくれます。ぜひ若い人も受験してほしいです。

野澤：仕事と大学の二足の草鞋は、ここまでできてしまえば、なんとかなります。大学で勉強する目的も明確ですし、実務に対しても生かせる部分も多いです。

白鳥：私は主婦業もあるので、三足の草鞋です。こういうのをきっかけにスタイルを変えるのもよいかと思いい、えいやで入学しましたが、家族がうまくフォローしてくれることが分かりました。いろいろ不安があると思いますが、飛び込んでみてください。大学生の子供と一緒にノートパソコンを開いて、おのおののレポートを書くのもよいですよ。

千葉：学んでいる父か母をみて、何かを感じているはずですよ。一度自分のしたい事をしてから、また大学で学ぼうというのは、非常に純粋な気持ちです。学んでやろう、先生方と議論してやろうという純粋な気持ち。まちづくりにはいろいろな側面がありますから、学んだことは、会社づくりでも、家庭づくりでも、何でも活かせると思います。人による集団社会に興味をもっているすべての人にチャレンジしてもらいたいです。

(2016年1月23日 工学部14号館141講義室にて開催)



■教員・現役学生・修了生が集う忘年会

■第9期生のプロフィール

人数：13名
年齢：29～52歳(平均40歳)
性別：男性9名、女性4名
出身学部：工学、社会工学、政治学、法学、社会学、経営学、政策学

修了要件と学位

requirements for graduation

- 所定の 30 単位を修得し、修士論文を提出して合格すること。
学位：修士（工学）



■長期履修学生制度

職業を有しているなどの事情により、標準修業年限では、大学院の教育課程を履修することが困難であると認められる者に限り、標準修業年限を超えた計画的な履修年限を設定することができる制度です。

修士課程での標準履修年限である2年間を、3年または4年に延長して、計画的に履修することができます。

この制度では、標準履修年限の授業料の総額を長期履修期間として認められた年数で支払うことになります。たとえば、修士課程において、3年の長期履修が認められた場合、1年間に支払うべき授業料(年額)は、2年分の授業料(通常の年額×2)の総額を3(3年間)で除した額となります。

入学試験

entrance examination

- 出願資格(次の①及び②を満たす者)

- ① 大学を卒業した者
- ② 原則として、出願時までに都市の計画、デザイン、マネジメント、整備・保全、あるいはさまざまなまちづくり活動に関わる分野で、社会人として2年以上の実務経験を有する者。
※詳しくは、学生募集要項を参照してください。

- 平成28年度入学試験日程

学生募集要項・入学志望者案内配布開始日 4月 1日(金)
説明会 4月11日(月) 19:00～
本郷キャンパス 工学部14号館141講義室

出願時期 5月10日(火)～5月20日(金)
入学試験 6月25日(土)
合格発表 7月 8日(金)
入学手続 9月20日(火)・21日(水)
入学式 9月23日(金)

※学生募集要項・入学志望者案内の入手方法については、
東大まちづくり大学院のサイトでご確認ください。
※平成28年度より9月入学となります。ご不明な点はお問合せ下さい。

- 入学試験の内容

筆記試験(英語、専門科目、小論文)、口述試験

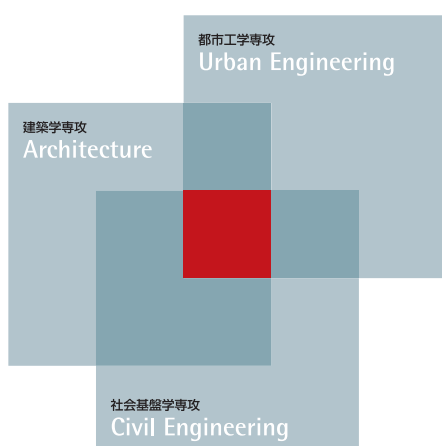
※上記の記述(出願資格・入学試験日程・入学試験の内容)は、いずれも予定です。
入学試験の詳細については、必ず「学生募集要項」、「入学志望者案内」でご確認ください。
※入試過去問題の販売については東大まちづくり大学院のサイトをご覧ください。

- 平成27年度入試結果

募集人員：12名 志願者数：42名
合格者数：13名 入学者数：13名

- 学費

入学料：282,000円(予定額)
授業料：年額 535,800円(予定額)



■お問い合わせ先

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻事務室内 東大まちづくり大学院デスク

TEL:03-5841-8362 FAX:03-5841-0370

E-mail office@mps.t.u-tokyo.ac.jp URL <http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/mps>

